

特定不妊治療費助成事業の実施医療機関  
(採卵・胚移植を行う医療機関)における情報提供様式①

医療機関名： 慶應義塾大学病院

配置人員 (※1)	産婦人科専門医	( 7 ) 名	
	うち、生殖医療専門医	( 6 ) 名	
	泌尿器科専門医	( 2 ) 名	
	うち、生殖医療専門医	( 1 ) 名	
	看護師	( 3 ) 名	
	胚培養士/エンブリオロジスト	( 7 ) 名	
	コーディネーター	( 0 ) 名	
	カウンセラー	( 1 ) 名	
治療内容 (※2)	治療の種類	年間実施件数 ( 2021 年)	費用
	人工授精	( 366 ) 件	( 2-3 万 ) 円
	体外受精	( 119 ) 件	( 35-40 万 ) 円
	顕微授精	( 189 ) 件	( 40-55 万 ) 円
	体外受精+顕微授精	( 19 ) 件	( 40-50 万 ) 円
	新鮮胚移植	( 2 ) 件	( 12-13 万 ) 円
	凍結融解胚移植	( 331 ) 件	( 14-16 万 ) 円
	精巣内精子回収術	( 1 ) 件	( 40 万 ) 円
※上記による記載が困難な場合は、第10号様式の「治療指針について」にご記入ください。			
実施事項	自医療機関の不妊治療の結果による妊娠に関して、公益社団法人日本産科婦人科学会における個別調査票（治療から妊娠まで及び妊娠から出産後まで）への登録を行っている。		(はい)いいえ
	自医療機関で分娩を取り扱わない場合には、妊娠した患者を紹介し、妊娠から出産に至る全ての経過について報告を受ける等、分娩を取り扱う他の医療機関と適切な連携をとっている。（自医療機関で分娩を取り扱っている場合は回答不要）		(はい/いいえ)
	医療安全管理体制が確保されている		
	①	医療に係る安全管理のための指針を整備し、医療機関内に掲げている	(はい)いいえ
	②	医療に係る安全管理のための委員会を設置し、安全管理の現状を把握している	(はい)いいえ
	③	医療に係る安全管理のための職員研修を定期的に実施している	(はい)いいえ
	④	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策を講じている	(はい)いいえ
	⑤	自医療機関において保存されている配偶子、受精卵の保存管理及び記録を安全管理の観点から適切に行っている	(はい)いいえ
⑥	体外での配偶子・受精卵の操作に当たっては、安全確保の観点から必ずダブルチェックを行う体制を構築しており、ダブルチェックは、実施責任者の監督下に、医師・看護師・胚培養士/エンブリオロジストのいずれかの職種の職員2名以上で行っている。	(はい)いいえ	

倫理委員会を設置している ※委員構成等については、公益社団法人日本産科婦人科学会の会告「生殖補助医療実施医療機関の登録と報告に関する見解」に準ずる	(はい)いいえ)
公益財団法人日本医療機能評価機構の実施する医療事故情報収集等事業に登録・参加している	(はい)いいえ)
不妊治療にかかる記録については、保存期間を20年以上としている	(はい)いいえ)
里親・特別養子縁組制度の普及啓発等や関係者との連携を実施している	(はい)いいえ)

毎年3月1日時点の状況について記載すること。

ただし、「年間実施件数」については、記載可能な直近の1年間のものを記載すること。

(※1)

- 東京都特定不妊治療費助成事業の実施医療機関における設備・人員等の指定基準（採卵・胚移植を行う医療機関）の「職員配置基準」を遵守し、正確に記載すること。
- 人員の算出は、常勤換算で行うこと。病院で定めた医師の1週間の勤務時間が、32時間未満の場合は、32時間以上勤務している医師を常勤医師とし、その他は非常勤医師として常勤換算する。（医療法第25条第1項）
- 胚培養士／エンブリオロジストについては、生殖補助医療胚培養士又は臨床エンブリオロジスト等の認定を受けている者又は大学において胚培養に関する専門的な教育を受けた者であって胚を取り扱う業務に従事しているものを記載すること。ただし、産婦人科専門医又は泌尿器科専門医が兼務している場合は、人数に含めない。
- コーディネーターおよびカウンセラーについては、産婦人科専門医・泌尿器科専門医・看護師・胚培養士／エンブリオロジストが兼務する場合には、コーディネーターおよびカウンセラーには含めないこと。

(※2)

- 人工授精は、月経周期開始から人工授精実施、妊娠確認までの一連の治療周期をさす。費用については、卵巣刺激等にかかる費用も含めた総額（標準的な費用）を記載すること。
- 体外受精は、採卵により得られた全ての卵子に対し、体外受精を実施した場合の、卵巣刺激、採卵/採精、前培養/媒精/胚培養までの一連の治療周期をさす。費用については、これら一連の治療周期に係る総額（標準的な費用）を記載すること。
- 顕微授精は、採卵により得られた全ての卵子に対し、顕微授精を実施した場合の、卵巣刺激、採卵/採精、前培養/媒精/胚培養までの一連の治療周期をさす。費用については、これら一連の治療周期に係る総額（標準的な費用）を記載すること。
- 体外受精＋顕微授精は、採卵により得られた卵子に対し、体外受精と顕微授精に分けて実施した場合の、卵巣刺激、採卵/採精、前培養/媒精/胚培養までの一連の治療周期をさす。費用については、これら一連の治療周期に係る総額（標準的な費用）を記載すること。
- 新鮮胚移植は、移植、黄体補充、妊娠確認までの一連の治療周期をさす。費用については、これら一連の治療周期にかかる総額（標準的な費用）を記載すること。
- 凍結融解胚移植は、子宮内膜調整法、凍結胚の融解、移植、黄体補充、妊娠確認までの一連の治療周期をさす。費用については、これら一連の治療周期にかかる総額（標準的な費用）を記載すること。
- 精巣内精子回収術は、SimpleTESEをさす。費用については、手術にかかる標準的な費用を記載すること。

特定不妊治療費助成事業の実施医療機関  
 (手術により精子の採取を行う医療機関)における情報提供様式①

医療機関名： 慶應義塾大学病院

配置人員 (※1)	泌尿器科専門医		( 2 ) 名	
	うち、生殖医療専門医		( 1 ) 名	
	看護師		( 1 ) 名	
	コーディネーター		( 0 ) 名	
カウンセラー		( 0 ) 名		
治療内容 (※2)	治療の種類	年間実施件数 ( 年 )	費用	
	精巣内精子回収術	( 1 ) 件	( 40万 ) 円	
※上記による記載が困難な場合は、第10号様式の「治療指針について」にご記入ください。				
実施事項	医療安全管理体制が確保されている			
	①	医療に係る安全管理のための指針を整備し、医療機関内に掲げている	(はい/いいえ)	
	②	医療に係る安全管理のための委員会を設置し、安全管理の現状を把握している	(はい/いいえ)	
	③	医療に係る安全管理のための職員研修を定期的実施している	(はい/いいえ)	
	④	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策を講じている	(はい/いいえ)	
	⑤	自医療機関において保存されている精子の保存管理及び記録を安全管理の観点から適切に行っている	(はい/いいえ)	
	倫理委員会を設置している ※委員構成等については、公益社団法人日本産科婦人科学会の会告「生殖補助医療実施医療機関の登録と報告に関する見解」に準ずる			(はい/いいえ)
	公益財団法人日本医療機能評価機構の実施する医療事故情報収集等事業に登録・参加している			(はい/いいえ)
	不妊治療にかかる記録については、保存期間を20年以上としている			(はい/いいえ)
	里親・特別養子縁組制度の普及啓発等や関係者との連携を実施している			(はい/いいえ)

毎年3月1日時点の状況について記載すること。

ただし、「年間実施件数」については、記載可能な直近の1年間のものを記載すること。

(※1)

- 東京都特定不妊治療費助成事業の実施医療機関における設備・人員等の指定基準(精子を精巣等から採取するための手術を行う医療機関)の「職員配置基準」を遵守し、正確に記載すること。
- 人員の算出は、常勤換算で行うこと。病院で定めた医師の1週間の勤務時間が、32時間未満の場合は、32時間以上勤務している医師を常勤医師とし、その他は非常勤医師として常勤換算する。(医療法第25条第1項)
- コーディネーターおよびカウンセラーについては、泌尿器科専門医・看護師が兼務する場合には、コーディネーターおよびカウンセラーには含めないこと。

(※2)

- 精巣内精子回収術は、SimpleTESEをさす。費用については、手術にかかる標準的な費用を記載すること。

下記記載様式を用いて、可能な範囲で記載して下さい。

医療機関名： 慶應義塾大学病院

治療実績について

※ 施設における、不妊治療による治療成績を記載して下さい。

(記載様式)

当院において、データの揃っている直近の1年間(2020年1月から2020年12月まで)に、治療開始時点において35歳以上40歳未満である女性に対して実施した治療の実績は以下の通りである。

【新鮮胚(卵)を用いた治療成績】

	IVF-ET	Split	ICSI	合計
採卵総回数(回)	47	9	46	102
移植総回数(回)	0	0	1	1
妊娠数(回)	0	0	0	0
生産分娩数(回)	0	0	0	0
移植あたり生産率(%)	-	-	0	0

IVF-ET: 採卵により得られた全ての卵子に対し、体外受精を実施

Split: 採卵により得られた卵子に対し、体外受精と顕微授精に分けて実施

ICSI: 採卵により得られた全ての卵子に対し、顕微授精を実施

【凍結胚を用いた治療成績】

	融解胚子宮内移植
移植総回数(回)	146
妊娠数(回)	37
生産分娩数(回)	23
移植あたり生産率(%)	15.7

来院患者情報

※ 施設を受診した患者数について記載して下さい。

(記載様式)

データの揃っている直近の1年間(2021年1月から2021年12月まで)に体外受精・顕微授精・胚移植を行った患者数(実数)は

25歳未満:(2)名

25歳以上30歳未満:(9)名

30歳以上35歳未満:(44)名

35歳以上40歳未満:(105)名

40歳以上43歳未満:(75)名

43歳以上:(57)名

データの揃っている直近の1年間（2021年1月から2021年12月まで）に精巣内精子採取術を行った患者数（実数）は

20歳未満：（ 0 ）名

20歳以上30歳未満：（ 0 ）名

30歳以上40歳未満：（ 0 ）名

40歳以上50歳未満：（ 1 ）名

50歳以上：（ 0 ）名

#### 治療指針について

※ 施設における統一された治療指針がありましたら記載して下さい。

卵巣予備能（卵巣にそれだけ卵胞が残されているか）、薬剤刺激に対する卵巣の反応性（発育卵胞数）を見極め、個々に応じた適度な卵巣刺激を行い、最も効率的な治療を心がけています。卵巣刺激法には、PPOS（黄体ホルモン剤を用いた卵巣抑制＋FSH/HMG注射）、アンタゴニスト法（GnRHアンタゴニストを用いた排卵抑制＋FSH/HMG注射）、クロミフェン/レトロゾールを用いたマイルド刺激などを用いています。また、がん生殖などでは、月経期に拘らず卵巣刺激を開始するランダムスタート法（黄体ホルモン剤やレトロゾールの併用も考慮）も行っています。

診療ごとに担当医が変わることで診療方針が不安定になることを避けるため、診療は原則主治医制をとっています。また、診療設備、人員ともに充実していますので、局所麻酔や無麻酔による採卵に不安を感じる方は、静脈麻酔（鎮静剤で眠る麻酔）も選択できるようになっています。

事前に手術が必要になる場合はできる限り速やかに対応します。例えば、子宮筋腫、子宮内膜ポリープ、卵巣嚢腫などに対する手術についても丁寧に対応し、手術前後もできるだけ採卵は行い（全胚凍結）、シームレスで効率の良い不妊治療を心がけています。

男性不妊外来では、勃起障害、乏精子症・無精子症の診断・治療（ホルモン療法、漢方療法、精索静脈瘤手術、顕微鏡下精巣内精子採取術（[MD-TESE]など）を行っています。

総合病院、大学病院の強みを活かして、最先端の周産期・小児医療や臨床遺伝センターとの連携を強化しています。出産年齢の高齢化や生殖医療の多様化によるハイリスク妊娠の増加に対して、当院では、着床前・出生前診断も含め、女性が安心して妊娠・出産し、子供の健康を託すことのできる高度な周産期・小児医療を実践しています。

#### 医療機関のホームページについて

<http://www.hosp.keio.ac.jp/annai/shinryo/reproduction-center/>